



皇學館

学園報 第70号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 専攻科 〒516-8555
三重県伊勢市神田久志本町1704
文学部 教育学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704
現代日本社会学部
高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

注目記事

- 2面 台湾・南台科技大学と協定締結、夏期語学研修を実施
- 3面 本学・三重県総合博物館(MieMu)連携事業「昆虫実験ラボ2017」を開催
- 4面 スポーツキラリ
- 5面 フィールドワーク報告記
- 6面 (高校・中学校) 第16回オーストラリア語学研修報告
第12回小学生・中学生英語スピーチコンテスト ほか
- 7面 台風一過、「皇學館DAY」を開催
- 8面 第49回全日本大学駅伝応援ガイド



地域の課題について(左)池山助教と玉城町教育委員、同川田中主事(中央)、中川総合戦略課幹事(右)と話し合い

「伊勢志摩定住自立圏共生学」を行政チャンネルで発信

文科科学省 地(知)の拠点

本学では「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)の最終年度である平成三十一年度において、同事業で開発された教育プログラム「伊勢志摩定住自立圏共生学」を行政チャンネルで発信することを計画している。それに先駆け、今年度は三番組を制作・試験配信することを決定。第一弾となる「科目I」が九月六日に収録された。

教育の成果を還元し、地域課題を共有

平成二十六年年度文科科学省選定「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)において開発された教育プログラムは「伊勢志摩定住自立圏共生学」(科目I・II・III・IV)四科目を中心に展開し、今年度で四年目となる。

「科目I・II」は、圏域三市五町(伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・明和町)の自治体職員やNPO法人の方をゲストスピーカーとして招聘。それぞれの地域が抱える課題とその取組みについて学生にお話いただき、地域の課題を共有し、

学生自らもその課題解決について学ぶことを目的としている。本学では、COC事業最終年度である平成三十一年度において、圏域の自治体の行政チャンネルを活用した「伊勢志摩定住自立圏共生学」講座の発信を計画しており、現在各自自治体に協力を働きかけている。それに先駆け、今年度は次の三番組の制作・試行配信を行うことを予定している。

◆科目I 皇學館大学(池山助教)×玉城町 皇學館大学(板井正斉准教授)×伊勢市 伊勢市制作 伊勢志摩定住自立圏特別番組 (平成三十年二月放送予定)

◆科目II 皇學館大学(板井正斉准教授)×伊勢市 伊勢志摩定住自立圏特別番組 (平成三十年二月放送予定)

◆科目III 皇學館大学(板井正斉准教授)×伊勢市 伊勢志摩定住自立圏特別番組 (平成三十年二月放送予定)

地域に開けた生涯学習の拠点として

また、COC事業を推進する教育開発センターの齋藤平教授は行政チャンネルでの教育プログラム発信について「地(知)の拠点整備事業の大きな柱である大学教育改革の中では、国民が生涯を通じて学び続ける仕組みづくりが求められています。本学では月例文化講座をはじめ、各種講座を地域住民の皆様を対象に開設してきました。このほど、連携自治体様のご協力を得て、地(知)の拠点整備事業の取組みである「伊勢志摩定住自立圏共生学」を行政チャンネルで配信することにより、地域住民の方々に学び続ける意義と楽しみをお伝えできればと考えています。ぜひ、ご覧ください」と話した。

この秋学期には科目IIの番組収録、また伊勢市制作の特別番組を収録し、順次配信していく予定です。

この番組を通して住民の方々に本学の教育プログラムを知っていただくと共にその成果を還元



収録に臨む齋藤教授

利他性と居住意思に強い関連性

伊勢志摩で共に暮らし続けることの魅力を考えるシンポジウム vol.3

九月十日、本学記念館にて地(知)の拠点整備事業(以下COC)による公開シンポジウムが行われ、学生や社会人など計一〇三名が参加した。これまで多様な地域課題の解決について、対話を通じて考え合ってきた本シンポジウム。今回は、学生が実際の地域活動を通してどのような思いを持っているのかを焦点に意見交換した。

シンポジウムは三部構成で実施し、一部では本学教員よりCOCの概要と進捗状況、伊勢志摩の若者を対象にした「伊勢志摩みらいづくり調査」の報告が行われた。報告ではボランティア活動に参加するなど利他性の高い人ほど地域に住み続けたいと考える傾向を紹介し、「なぜ利他性は居住意思と関連が強いのか」という二部へのテーマ提起とした。

一部は伊勢志摩圏域市町の若手職員八名、伊勢志摩で地域活性に取り組む本学学生八名が登壇するフューチャーセッション。進行は本学教員二名とCLL活動「皇學館みらい対話団」のメンバーである林雅也君(教育三年)が担当した。まずは各自が自分が関わった地域活動の概要を説明。林君から学生に「地域への思いの変化」について聞いたところ、学生か



学生が地域活動の魅力を一言で表現

本学、明和町及び農事組合法人松幸農産、旭酒造株式会社、株式会社伊勢萬が参画する産学官連携日本酒プロジェクトが始動して二年。秋晴れとなった九月九日、酒米「神の穂」の稲刈りと拔穂祭が明和町前野の水田にて執り行われた。昨年に行われた。天候に恵まれた今年は、米の出来も良好とのこと。酒の仕込みは年末から始まり、来年三月に「神都の祈り」約二千三百本が完成する予定だ。すっきりとキレのある飲み口が印象的だった前回と比べ、今回はどのような味わいとなるのか、じっくり待ちたい。



水田前にて執り行われた祭式研究部による拔穂祭



本プロジェクトに関わる学生8名と教員及びプロジェクト関係者で稲刈りを行った

黄金色の「神の穂」収穫 産学官連携日本酒プロジェクト

倉田山 春秋

駅伝競走部が、創部以来の悲願である全日本大学駅伝への出場を決めた。熱田神宮から伊勢神宮までを八人でつなぐ。この大会は、現在の正式名称を「秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会」というが、昭和四十五年の第一回大会は「全日本大学対校駅伝選手権」と呼んでいた(朝日新聞社史資料編)。▼神宮皇學館長を務めた武田千代三郎が「駅伝」の名付け親である縁を考えれば、本大会の物語性や、意義は深いものとなるし、日本学生陸上競技連合の幹部からも日本一を決めるのは本大会であるべきだという話も聞いた▼「駅伝」は駅制と伝馬制との合成による言葉で、平安時代の辞書「色葉字類抄」には「えきてん」の読みが示されている。近代は「伝」に「でん」の音を用いることが多く、「えきてん」が一般的になった▼この日本発祥の競技は、講談社刊の「JAPAN PROFILE OF A NATION」にも柔道、空手と並んで「Eikiden kyoso(駅伝競走)」として立項されているから、日本を紹介するのに必要な一語なのだろう▼競技の価値を高めるためにも駅伝の歴史と伝統をつなぐ駅伝競走部の健闘を祈りたい。

台湾・南台科技大学と協定締結、夏期語学研修を実施

本学は八月に国際的な教育及び学術研究交流の促進を目的に、台湾の南台科技大学と大学間協定を締結した。まずその先駆けとして、八月十二日〜九月八日には國學院大學との共催で、第一回語学研修を実施。学生三名が同大学中国語センターにおいて語学研修プログラムを集中的に受講した。また、課外には茶道や武術、藍染等現地の文化を実体験する文化講座や台南の名所旧跡を訪問するフィールドスタディに参加し、中華文化の理解を深めた。



中国語で行われた授業

本学では「中期行動計画（平成二十七〜三十一年度）」に基づき、英語圏での各種プログラムに加え、中国語圏短期語学研修プログラムの一層の充実を図るため、グローバル化推進委員会において新たな派遣先の追加を検討してきた結果、南台科技大学が最適との結論を得た。同大学は台湾の古都・台南に位置し、理工系大学では同国トップレベルの実力を誇り、また近年は外国人留学生のための中国語教育に注力している。以下、参加した

内藤恭子さん（神道三年）、中井美月さん（国文学三年）の感想を報告する。

中国語を学ぼうと思つたきっかけは？

内藤◆中学生の頃からアルファベットより漢字が好きで、漢字文化圏に興味がありました。大学の中国語の授業も楽しく、さらに学びたいと思つたのが理由です。

中井◆英語以外の外国語を身に付けたいと、中国語を学び始めました。研修中、効果があると感じた授業は？

内藤◆研修では語学学習のほか、多くの文化体験講座を受けました。字幕と映像で言葉のニュアンスを学ぶ授業はとても楽しく、効果的でした。

中井◆授業はすべて中国語で行われますし、初級

（文法のクラスでは教科書に載っていない単語や言い回しを学べたので非常に役立ちました。

留学中、印象に残つたことは何ですか？

中井◆若い人でも昔からの言い伝えを信じていて、慣習やしきたりを非常によく守っていました。その姿がとても好印象で、私たち日本人も伝統や風習を疎かにすべきではないと今まで以上に思いました。

内藤◆日本文化を愛している現地学生が多く、会話が弾みました。彼らは

勉強熱心で専門的な言葉まで訳せるほど日本語が上手く、感心しました。

参加して成長したと感じる部分は？

中井◆フットワークが軽くなったことがいちばんの成長です。語学力の面では挨拶以外にも好き・嫌いなど簡単な気持ちをスムーズに表現できるようになりました。

内藤◆日常会話ならさほど考えずにできるようになったこと。また、文化の違いを受け止める必要性や「郷に入らば、郷に従え」を体感しました。人との交流がいつも楽しみに感じられたことも収穫でした。

同研修への参加を検討している学生に対して、メッセージをお願いします。

内藤◆伝えようという姿勢があれば拙い語学力でもコミュニケーションがとれます。やる気さえあれば周囲が手を差し伸べ



南台科技大学は台湾台南市永康区に位置し、学生数はおよそ1万8000人



「日米学生会議」一行が来学

日本と米国の大学生が各地を視察しながら世界の諸問題について議論する「第六十九回日米学生会議（国際教育振興会主催）の一行六十八名が八月十八日、本学を訪れ、日本の精神性のルーツについて学んだ。同会議は一九三四年から始まった、日本初の国際的な学生交流プログラム。日本と米国とで交互に開催され、今回は八月六日から二十八日までの日程で京都、愛媛、三重、東京を回った。十七日から二十一日にかけて三重に滞在した一行は十八日に来学。櫻井治男教授による神道についての講義や雅楽部による



「浦安の舞」を披露した神道学科四年の西田日向子さんは「舞は神様の心を御慰みするもの。舞を通して神道の考え、日本人の信仰心を具体的に示すことができました」と語り、参加者からは神道や伝統文化への理解が深まったとの声が聞かれた。

流麗な演舞を鑑賞した。

「浦安の舞」を披露した神道学科四年の西田日向子さんは「舞は神様の心を御慰みするもの。舞を通して神道の考え、日本人の信仰心を具体的に示すこと

ができました」と語り、参加者からは神道や伝統文化への理解が深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

深まったとの声が聞かれた。

平成29年度 海外インターンシップ(マレーシアプログラム)報告



クアラルンプールの現地法人の社屋前にて

二回目を迎えたマレーシアプログラムは、伊勢市に本社のあるクローバー電子株式会社のご協力により、マレーシアの現地法人「Aoba Electronics Co.」にて八月二十日から二十五日にかけて実施。参加者は九名と前回の三名から大幅に増加し、学生の注目度の高さがうかがい知れた。現地での研修に先立ち、八月八日には同本社において本インターンシップの担

「海外で働くこと」を体験

当者と帰国していた現地担当者（両名とも本学卒業生）より、事前指導として講義いただいた。講義では、まず業務の内容や研修先のマレーシアについてご説明いただき、「なぜ海外進出しているのか」「海外で働くことの意義や必要性」等の刺激のあるご指導をいただいた。

八月二十日、学生九名と引率職員の計十名がマレーシア入りし、翌日から三日間、「Aoba Electronics Co.」にて就労体験を行った。工場で実際のラインに入り業務を行うものの、日本語が通じない環境でのコミュニケーションには非常に苦労したようだ。また、取引先の工場見学や社内でのマネジメント会議に出席し、感想を発表するなどした。現地の従業員の皆様に温かく迎えていただき、就

労体験にとどまらず、マレーシアの方々とも心を通わせたようだ。

学生はそれぞれに海外で働くことの意義を学んだが、何よりも海外へ出ることで自体の必要性を知ったことであろう。以下に学生の感想を紹介する。

●現地の方とコミュニケーションをとるために、語学力を身に付けて、もっと積極的に話しかけたいと思つた。

●英語に自信がなくても、伝えようとする気持ちがあれば伝わるのがわかった。

●言葉が通じないときに、相手が紙に英語を書いてくれた。自分から相手に意思を伝える必死さが自身に足りないと感じた。

●この出会い、経験を忘れずに、またここで終わらせずに、これから活かしていきたい。

たったUIA会員の東玲子さんは「学ぶ意欲が高く、英訳を暗記するのはなく、意味を理解して自分の言葉で表現しようとする姿勢に感銘を受けた」と語った。コミュニケーション学科三年の多湖優花さんは「日本語で消化できていないと英語で伝えることは難しいと感じた。茶道の所作の意味を英語で伝えられるようになった」と語った。

現代日本社会学科三年の池田和弘君は「将来、観光業を志望している。外国の方と接するとき今日の経験を生かしたい。このような研修を毎年続けてほしい」と話した。

英語による茶の湯研修会開催

九月二十四日、記念館にて「第一回英語による

茶の湯研修会」が開かれた。これは日本の伝統文化・茶道を正しく理解し、世界に紹介できる真の国際人の育成を目的としたもので、UIA（裏千家インターナショナル・アソシエーション）の方々が見守る中、英語で実践発表する学生たち

ヨンの方々より英語での茶道紹介の仕方を学び、茶会で実践力を養うプログラムだ。

当日は、本学茶道部と現代日本社会学部との授業「茶道」の受講生ら十五名が出席。午前は、UIA会員の英語による茶会のデモンストレーションを見学し、二人一組に分かれて茶席での亭主と正客のやり取りを英語で稽古した。午後からは学生による実践発表（英語による茶会）とUIA会員との意見交換を行った。

学生らはこの日の研修会に向けて、三回の事前研修を受けて臨んだ。まずは茶道独特の専門用語や挨拶の英訳を学び、少人数での会話練習、模擬茶会を繰り返して、身に付けたという。指導にあ

池田和弘君

多湖優花さん

池田和弘君

多湖優花さん

池田和弘君

多湖優花さん

池田和弘君

多湖優花さん

池田和弘君

多湖優花さん



池田和弘君



多湖優花さん

三八〇名が昆虫の世界に浸る 教育学部生物学ゼミが三重県総合博物館でワークショップ開催

八月五日、六日の両日、三重県総合博物館において教育学部生物学ゼミ（中松教授）によるワークショップが開催された。これは、本学チャレンジプロジェクトの一環であり、三重県総合博物館との協働事業として行われたものである。対象は園児・児童とその保護者で、二日間で三八〇名の参加者が昆虫たちの織り成す不思議な、かつ、少し物悲しい世界に浸った。

卒業生も動員しての大掛かりな取り組みとなった今回のワークショップは、実験ブースと展示・工作ブースを使った二本立てで進められた。実験ブースでは「アワヨトウ(蛾)とカリヤサムヨトウ(蛾)とカリヤサム



夢中で実験に取り組む参加者たち

学生の指導にあたる吉岡更紗氏



心游舎ワークショップ「御花神饌」づくりを体験 佐川記念神道博物館

開催にあたり大島信生研究開発推進センター長の挨拶があり、続いて彬子女王殿下のお話があった。次に、採取した各樹種の枝や、化学染料を一切使用しない古代染めの技法の復元による取組み、国宝の修復等で活躍されている染織史家・吉岡幸雄氏が講話。伝統的な仕事に従事することが多いことから、自然を尊ぶ・古典を尊ぶことの大切さ、温故知新の気持ちや忘れられないこと、伝統的な染め技術の大切さなどを話した。

彬子女王殿下が総裁を務められ、本学も会員である「心游舎」ワークショップが八月二十一日、本学・佐川記念神道博物館において開催され、博物館学芸員をめぐす学生二十六名が「御花神饌」づくりを体験した。

御花神饌とは古代染めの和紙で作られる造花。このワークショップは京都・清水八幡宮で毎年九月十五日に行われる勅祭・清水水祭にお供えされる神饌の一部を制作するもので、本学での開催は平成二十七年に続き二回目となる。



彬子女王殿下

開催にあたり大島信生研究開発推進センター長の挨拶があり、続いて彬子女王殿下のお話があった。次に、採取した各樹種の枝や、化学染料を一切使用しない古代染めの技法の復元による取組み、国宝の修復等で活躍されている染織史家・吉岡幸雄氏が講話。伝統的な仕事に従事することが多いことから、自然を尊ぶ・古典を尊ぶことの大切さ、温故知新の気持ちや忘れられないこと、伝統的な染め技術の大切さなどを話した。

深草教授が学会賞受賞

深草正博特命教授がグローバル教育の研究と推進に顕著な功績をあげたとして、九月二日、小田原市国際医療大学で開催された日本グローバル教育学会第二十五回全国大会において学会賞を受賞した。第二十三回は本学開催。



賞状を手にする深草教授(右)

同学会は「異質と共存し、地球の利益の観点から問題解決に向かう地球市民の育成をめざす」との趣旨のもと、一九九七年に設立。環境や平和、異文化理解等、グローバル化の進展した現代社会の諸テーマについてその教育のあり方を追究している。

表彰式の後、「新学習指導要領と環境世界史」との題目で基調講演を行った深草教授はその中で、六十四、十七世紀に深刻な寒冷化に見舞われ、世界史が古代・中世・近代へと大きく動いたこと、アメリカの森林破壊が進歩や民主主義の思想が広まる

のと並行して激しくなってきたこと等を取り上げ、「歴史をグローバルに見るための方法」として、気候変動と森林破壊の二つの面から考察する必要がある」と説いた。現在、同学会の副会長兼事務局長を務めている深草教授。今後益々の活躍をお祈りいたします。

「アメンボウがなぜ水に浮くか」を理解するため、モールを使った「表面張力」の実験を行った。さらに、中松ゼミが取り組んでいる「理科の事前授業」を始めとする生物学の研究・教育活動をパ

ネルで紹介した。中松ゼミでは「実物や実際の現象を見て・感じて・体験する」ことを大事にしている。そのために、教材の昆虫を日夜飼育したり、実験道具や機器を揃える等の苦勞を伴うが、「生きた教育」を提供することで地域の教育活動への貢献のみならず、昨今の「理科離れ」の解消にも繋げたいという中松教授の強い思いがある。

今回は夏休みとあつて親子連れで賑わい、子どもも大人も身近な生き物の昆虫に関心を持つ良い機会となった。また、本

ワークショップで見たり、感じたことをそれぞれの家庭に持ち帰り、家族で話をするなど学びの深化・広がりにつなげられ、さらに素晴らしい。今後様々な工夫を加えながら、この取組みを継続していってほしい。

八月十七日から二十二日にかけて、教員免許状更新講習を伊勢会場及び四日市会場で開催した。五日間三十時間に及ぶ講習は三〇二名が受講。三重のみならず、愛知、滋賀、京都、奈良、福岡など県外からの受講者もあった。

平成二十一年四月に教員免許更新制が導入されたことにより、教員免許状の有効期限を十年とし、更新するには指定の期間に三十時間以上の講習を受講し修了することが必須となった。本学での講習は、五日間のうち一日は必修領域として「国の教育施策・世界の教育の動向・教職について」の省察・子どもの変化についての理解、一日は選択必修領域として「法令改正・危機管理・教育相

県内外から三〇二名が受講 教員免許状更新講習

「参加型の絵本や音楽は身近なことなので楽しかった」「体育館で行われた体育実技はエアコンのおかげで快適に受講できた」「日本の伝統文化について、日本人として皇大で受講でき良かった」「会場の空調、照明、会場までの案内にも満足した」等、感想をいただいた。

談・進路指導及びキャリア教育、英語教育、後半の三日間では選択領域として「伝統と文化の理解・道徳教育及び教科内容の充実」をテーマに最新の教育事情を踏まえ、直面している教育課題や本学の特色、地域性に配慮した内容も取り入れた講習が行われた。講師陣は本学教員の他、著名な外部講師も担当した。講習後、受講者からは「研修として参加したいものばかり。また機会があれば参加した

満席となった講習会場

全国高校生「SBP」交流フェア

料理部門 SBPチャレンジ部門

実行委員会

三重県立相可高校 食物調理科・生産経済科、南伊勢高校 SBPの生徒達と皇學館大学の学生スタッフにより、本フェアの企画・運営を行い、それを文部科学省、皇學館大学、三重県、伊勢市、南伊勢町等が支えています。

協賛金等 企業・事業者の皆様

後援等 国、県、市町村、各種団体等

本学で「第二回全国高校生SBP交流フェア」開催

8月18日、19日の両日、本学をメイン会場に「第2回全国高校生SBP交流フェア」が開催され、青森から沖縄まで25団体、約350名が参加した。SBPとはソーシャルビジネスプロジェクトの略。全国の高校生が地域資源（ひと、もの、自然、歴史、産業など）と交流し、見直し、活用して（まちづくり）や（ビジネス）を提案し、その取組みを地域で支えていこうというものだ。未来の大人応援プロジェクト実行委員会（委員長：現代日本社会学部岸川政之教授）の主催、文部科学省の共催で、内閣府や総務省など多くの行政機関やグーグル、パネッセ、赤福など大手企業の協力があり、本学も昨年の第1回から後援している（ホームページは「SBP交流フェア」で検索可）。



参加者に語りかける岸川教授(右)

フェアの企画・進行は高校生が担当し、そのサポートを本学の学生28名が担った。大学生スタッフ代表で審査員としても参加した現代日本社会学科3年の世古晶大君は、「大変なことも多かったけれど、この体験は社会に出てからも生かされる。本当に参加してよかった」と意義を熱く語る。次回も来年8月に本学開催予定。多くの学生諸君のスタッフ参加を期待したい。

大学

力必達〈つとむれば かならず たっす〉 柔道部

8月27日、東海学生体重別選手権大会が愛知県武道館にて開催されました。本学の結果としては優勝者3名を含む過去最多の17名が入賞し、内16名が全日本学生柔道大会への切符を手にすることができました。また、1名は来年の世界選手権第1次選考会である講道館杯全日本柔道体重別選手権大会出場が決まりました。

本学柔道部の歴史に新たな事績を刻むことができたのも、遠方よりわざわざ現地に足を運んでくださった学内外の方々、保護者の皆様、OB・OGの皆様、学友の皆様のお力添えのおかげと感謝の気持ちでいっぱいです。また、日夜厳しい稽古に励む「今の彼らの最高」が出せた成果ではないかと考えています。振り返れば、選手登録されなかった者も含め、

部内には「みんなで勝つ!」という雰囲気が広がっていました。大会期間中、次年度以降のために全試合の詳細なデータを取り続ける者、声をからしながら応援する者、大会前の選手の投げ込みを必死になって受ける者……男女共、総合的なチーム力の向上を垣間見ることができました。立ち居振る舞いや礼儀作法の面でも過去最高でした。しかし、決して今回の結果に“満足”しているわけではありません。部員はもちろん、大学の先生方、事務の方々、OB・OGの方々、関係するありとあらゆる人々と力を合わせ、「力めて必ず達成」します。

力必達〈つとむれば かならず たっす〉—嘉納治五郎の信念は受け継がれます。

柔道部顧問 佐藤武尊



過去最多となる17名が入賞した東海大会

スポーツ キラリ

オリンピックでメダルをとることが目標

小久保 真旺 (3年A組)



賞状と記念の楯を手に喜びの表情

僕は6歳頃から習い事感覚でフェンシングを始めました。これまでのフェンシング歴の中で転機となったのは、2つの出来事です。一つは、中学1年生の時に参加した合宿。全国の人たちが集まったこの合宿でフェンシングについて深く知ることができた僕は、よりフェンシングが好きになり、以来、練習に励むようになりました。もう一つは種目を変えたことです。中学2年生になり、それまでは「フルーレ」という日本で一番人口の多い種目をしていましたが、「サーブル」に転じたところベスト8に入ることができ、

昨年末には強化選手に選ばれ、7月に

行われた東京都カデ選手権大会では3位、8月に和歌山県で行われたアジア大会では予想以上に身体が動き、いつも負けている相手に勝ち優勝することができました。最近ではオーストラリアで行われた大会で個人で7位、団体戦では優勝しました。

現在、国内ランキング(2017-2018男子サーブル・カデU-17)では3位の位置につけています。今後も海外遠征や試合が多くあるので、少しでも良い結果を出せるよう頑張りたいと思います。そして、将来はオリンピックに出場し、メダルをとることが目標です。それをかなえるためにも、一所懸命練習に励んでいきます。



結果にこだわりたいと話す小久保君(右端)

中学校

11月1日から7日は

教育文化週間

教育・文化週間は教育や文化への関心と理解を深め、充実・振興を図ることを目的として設けられ、今年で59回目を迎えます。本週間の期間中には、全国各地で教育・文化に関するさまざまなイベントが開催されます。

例えば…

- 博物館や美術館の無料公開や特別展示
- 伝統芸能・工芸の鑑賞会や体験講座
- 地域住民が日頃の活動成果の発表を行う市民文化祭
- 図書館、公民館などでの各種講演会・講座
- 大学等における公開講座
- 子供向けの自然体験教室 …等々

興味のあるイベントにぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

詳しくは http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/kyoiku-bunka/

第56回 倉陵祭 開催 10/28(土)~29(日)

アーティストライブ

10/28(土) 開場・16:00 開演・16:30

会場・皇學館大学 記念講堂 **入場無料・要整理券**



※整理券配布の時間等は倉陵祭HPでお知らせいたします。

フロウバック

FlowBack

FlowBackは、MASAHARU、TATSUKI、MARK、REIJI、JUDAIからなる5人組ダンス&ボーカルグループ。2014年開催の国内最大規模オーディション「LINEオーディション」応募者125,094組の中からファイナリスト8組に選出され注目を集める。年間100回を超えるステージを重ね続け、2016年9月シングル「Come A Long Way」でメジャーデビュー! リリース全タイトルがオリコンウィークリーチャート上位にランクインしている超注目の新鋭グループ。

クラブによる模擬店・展示・ステージ発表や子供広場、伝統体験等、多彩な企画を計画中! 詳細は「倉陵祭」のホームページを随時更新し、お知らせします。

<https://www.kogakkan-u.ac.jp/users/gakusei/souryou/index.html>

講演会

10/29(日)

入場無料・予約不要・先着順

開場・9:30
開演・10:30(終了予定12:00)
会場・皇學館大学 記念講堂

「世界からのメッセージ ~人間愛と絆~」

講師・渡部陽一氏



学生時代から世界の紛争地域を専門に取材を続ける。戦場の悲劇、そこで暮らす人々の生きた声に耳を傾け、極限の状況に立たされる家族の絆を見据える。イラク戦争では米軍従軍取材を経験。これまでの主な取材地はイラク戦争のほかるワグダ内戦、コンボ紛争、チェチェン紛争、ソマリア内戦、アフガニスタン紛争、コロンビア左翼ゲリラ解放戦線、スーダン、ダルフル紛争、パレスティナ紛争など。

問合せ 学生支援部 学生担当 ☎0596-22-6317

フィールドワーク報告記

文学部編

秋のフィールドワークが実施され、文学部国内組は16、海外組は6つのグループがそれぞれの学びの地へ赴いた。確かな目標・目的をもって臨んだフィールドワークは、いずれの学生にとっても刺激的かつ知的な好奇心を満たすひと時となったようだ。



主体的学修態度を養う

菅野覚明ゼミ 神道学科3年 河野広太郎

菅野ゼミのフィールドワークは、9月14日から4日間、東北地方と函館を目的地として実施された。

初日はまず、宮城県岩沼市の竹駒神社に正式参拝を行った。神職の方々は一切の妥協を許さない厳正で美しい祭りを齎行していただき、大変感銘を受けるとともに、自分たちも見習わなければならないと気持ちを新たにさせられた。その後、村田権宮司様より手作りの詳細な資料をもとに、神社の由緒などについてご講話を賜った。また、館友先輩神職様方との懇談は予定時間をオーバーするほど話が弾み、先輩の温かさをしみじみと感じた。

松島、毛越寺、中尊寺などでは軍事的・地政学的な観点から観察した者、仏教儀礼を見学した者、名産を食べ歩き地方文化に触れる者など各自が主体的関心に基づいて研修をした。

2日目の宮沢賢治記念館、高村光太郎記念館では、文学が宗教と深くかかわっていることを知り、驚いた。偶然に入った工芸館で伝統の機織を見学させていただいたことなど、番外で学んだことも多かった。

3日目は小岩井農場に行き、その後函館に移動したが、台風の接近で帰りの飛行機に欠航の心配が出てきた。先生が新幹線の中に帽子を忘れるアクシデントもあったが、みんなで心をこめて旅の安全を神に祈願した(結局、飛行機は予定通り運航した)。このような4日間のゼミ旅行であったが、その目標「主体的学修態度の養成」については皆で達成できたと思う。



竹駒神社にて正式参拝とご講話を拝聴

北へ—古代史ゼミ北海道探訪

遠藤慶太ゼミ 国史学科3年 中谷寛汰・僚汰

私たちは古代北方史の遺跡を見学する目的のもと北海道を探訪した。現地に着き、まず北海道神宮を正式参拝、神職の方は北海道の歴史についてご講話くださった。いただいたお神酒が予想以上に濃くて驚いた。

2日目は自由行動で、大通公園をはじめ旧道庁や時計台など札幌の史跡を巡った。私たちはスポーツ観戦に興味があったので、札幌ドームで北海道日本ハムファイターズの野球の試合を観戦した。地元で根をおろした球団の活躍をみて、非常によい思い出になった。

3日目は、恵庭郷土資料館・キウス周堤墓群を見学した。学芸員の方から詳しく説明していただき、カリンバ遺跡から出土した縄文時代の赤い漆製品などを見ることができた。

最終日はアイヌ民族博物館に行き、伝統の舞踊を見ることができた。充実した4日間で、北海道の風土を体感し、北方史の視点を養うことができた。これをきっかけに研究に励みたい。



白老・アイヌ民族博物館にて

平成29年度 文学部フィールドワーク日程一覧

引率教員	目的地・方面	日程
国内		
加茂正典	北海道	9/11(月)~14(木)
菅野覚明	東北・北海道	9/14(木)~17(日)
松本丘	宮崎・鹿児島	9/11(月)~13(水)
板東洋介	宮城・岩手	9/11(月)~14(木)
大島信生	福岡・佐賀	9/12(火)~15(金)
齋藤平	岩手県	9/11(月)~14(木)
中川照将	京都	9/11(月)~13(水)
深津睦夫	宮城・岩手	9/11(月)~14(木)
岡野裕行	東京方面	9/10(日)~14(木)
小堀洋平	東京	9/11(月)~14(木)
上野秀治	岐阜・長野・新潟・金沢	9/10(日)~13(水)
岡野友彦	神奈川・千葉・茨城・東京	9/12(火)~15(金)
松浦光修	鹿児島・山口	9/12(火)~14(木)
遠藤慶太	北海道	9/12(火)~15(金)
多田實道	中部・関東方面	9/11(月)~15(金)
外山秀一 芳賀康朗	沖縄	9/5(火)~9(土)
海外		
河野訓 張磊	インドネシア	9/10(日)~14(木)
上小倉一志 松下道信	中国(北京)	9/16(土)~19(火)
田浦雅徳 谷口裕信 堀内淳一	中国(満州・上海)	9/12(火)~16(土)
児玉玲子 山田やす子	マレーシア	9/6(水)~11(月)
桐村喬 川島一晃	グアム	9/5(火)~9(土)
豊住誠 川村一代 クリスティーナ	シンガポール	9/9(土)~13(水)

平安文学の舞台を歩く

中川照将ゼミ 国文学科3年 山路尊

私たち中川ゼミは平安文学の中心地の平安京があった京都を中心にフィールドワークへ行った。

『蜻蛉日記』などに描かれる石山寺や、『百人一首』蝉丸の和歌でも有名な逢坂の関址、『源氏物語』第三部の舞台となる宇治を散策した。また、実物大の牛車や光源氏の住居の模型が展示される源氏物語ミュージアム、平安時代の風俗・衣裳が展示される風俗博物館など様々な場所を訪れたが、その中でも最も印象に残ったのは、京都市内の散策だ。市内散策では、『大鏡』冒頭でもおなじみの雲林院からスタートし、紫式部の墓、大内裏があった二条城周辺を経て、光源氏の住居があったとされる五条大橋まで、徒歩やバスなどを使って約6時間かけて移動した。平安時代の地図を手に平安京の北から南へ歩いたが、想定以上の距離の長さには驚かされた。

今回のフィールドワークを通して、新しい気付きとともに、ゼミ生と中川先生の仲がより深まり、非常に意義深い旅行であった。



宇治・朝霧橋にて

観光産業の地域性を学ぶ

桐村喬ゼミ コミュニケーション学科3年 村木洸太

グアムは1970年以降、日本からの観光客向けに発展していった観光地であり、現地には4日間滞在した。その間、国外でありながら、至るところで多くの日本語による情報を見かける機会があった。日本人向けの日本料理店はもちろん、現地のレストランやホテル内、公共交通機関、現地住民向けであろう大型スーパーなどにも日本語で日本人向けの説明が書かれており、日本のポイントカードが使える店もあった。また、韓国語や中国語の案内もある程度見られ、近年増加する観光客の国籍に合わせて、情報提供に使われる言語が変化していることが確認できた。会話に関しても、日本語を少し喋ることができ、現地住民が多く、店舗などでは英語がわからなくてもある程度のコミュニケーションをとることができた。現地住民向けの書店では、日中韓の各言語のテキストが目立つところに配置されており、観光産業を中心とする地域性を感じることができた。



グアムミュージアムを見学し、グアムの歴史文化を学んだ

皇高NEWS

皇高祭「Color〜イロトリドリに描け!!」開催

九月二十日、二十一日の両日、第五十五回皇高祭が行われ、寄席やクラス展示など多彩なプログラムが用意された。以下に準備に携わった校友会総務副委員長・瀬田京子さんの感想を紹介する。

皆さんの協力のおかげで成功

校友会総務副委員長 瀬田京子



私は今年、校友会の役員という立場で皇高祭を迎えました。一番印象深かったのは祭典です。全校生徒の代表として...



祭典 ● 厳粛な雰囲気で行われた「祭典」。参列者一同が頭を垂れ、神様に文化祭の意義を申し上げるとともに、学業を修められたことへの感謝の気持ちと、その成果をご報告。そして文化祭の成功を願い、生徒一同が今後も勉学に励めるようにお祈りを捧げた。



吹奏楽部発表 ● 昨年に続いて今年も三重県吹奏楽コンクール高校A編成の部で優勝を果たした吹奏楽部は「ラッキーロード〜第五福竜丸の記憶〜」や「情熱大陸」などの演奏に加え男子部員によるダンスのパフォーマンスも披露。全員の拍手と手拍子で会場は大いに盛り上がった。



書道部展示 ● 書道部は部員の作品と1年生の書道選択生徒の作品を展示した。書道部員37名は掛け軸と色紙を1人1点ずつ製作し、普段の活動の中で取り組んだ成果を発表した。中央に並べられた1年生書道選択者による扇子の作品も魅力的で、来場者の目を引いていた。



1年4組 爪楊枝アート展示 ● 1年4組は19万本の爪楊枝を着色して青空に映える見事なヒマワリ畑を教室内に作り上げた。1人1枚絵柄の案を出し、9月最初にクラス全員の投票で絵柄を決定。色つけ→乾燥→発泡スチロールへの差し込みという根気のいる作業を何度も繰り返し、皇高祭前日に完成にこぎつけた。完成の瞬間にはクラス全員から大きな拍手と歓声が上がった。

帰国後は能動的な英語学習へ

第十六回オーストラリア語学研修報告



現地クラスメートと一緒に記念撮影

夏休み中、七月二十四日から八月六日までの二週間、オーストラリア・メルボルンにおいて語学研修を行った。姉妹校であるローズヒル・セカンダリー・カレッジとの交流も今年で十六年目を迎えた。今年も本校から十二名の生徒たちが参加した。生徒たちは本校の代表として様々な場面で積極的に活動し、ローズヒルの先生方やホストファミリー...

語学研修へ意欲が湧いてきたのではないだろうか。語学研修に参加した生徒たちは、自分の英語力と真摯に向き合い、自分に足りないものを考え、それを補うためにこれからどう取り組もうか模索する。今まで受動的だった英語学習は帰国後、能動的なものに変わる。今回の語学研修生たちも、この語学研修での経験を糧に英語学習に励み、自分の夢に向かって努力してくれるものと確信している。

国際交流担当 角屋重文

コンテストがチャレンジの場に

第十二回小学生・中学生英語スピーチコンテスト

八月十九日に第十二回小学生・中学生英語スピーチコンテストが開催され、小学生の部は...



入賞者たち(上/小学生、下/中学生)

小学生の部は「Playground Games」(子ども遊び)、「アドバンストは「Shikoku(四国)」をテーマに英文を暗唱。中学生の部では「The country I want to visit」(私が行きたい国)、「What can we do to protect the environment?」(環境保護のために私たちは何ができるか)、「Smartphones」(スマートフォン)のテーマから一つを選んでスピーチを行った。どうすればスピーチの内容や自らの思い・意見を正しく、効果的に伝え訴えることができるのか、それぞれが創意工夫し、最後まであきらめず、一生懸命表現しようとする姿がとても素晴らしく感じた。

結果は、小学生の部では「ビギナー」林青一郎君(明野小学校)、「アドバンスト」田中ルカさん(暁小学校)、中学生の部では宮口紗良さん(高田中学校)がそれぞれ優勝に輝いた。このスピーチコンテストが参加者それぞれにとって大きなチャレンジの場となり、英語を使う楽しさを感じるとともに、英語のみならず、日本語による発信能力、プレゼンテーションスキルを高める機会にもなったことを願う。

英語科 橋本真人

「おは・し・も」守り、速やかに

中高合同・地震避難訓練

九月一日の防災の日にあわせ、中学校・高校合同での地震避難訓練が行われた。今回は、授業中に東海地震(震度五〜六程度)が発生した場合を想定して実施された。地震の発生を知らせる非常放送が入り、即座に学級担任が第一次避難を指示す

ると、生徒たちは各教室で地震の衝撃による落下物などから頭部を守るために机の下に身をひそめ、次の指示を待った。担任以外の教員は指定されたポイントにつき、避難経路の安全確認を行った。安全が確認されたのを受け、再度、一斉放送により、「避難開始」の指示が出されると、第二次避難を開始し、避難場所へ移動した。避難時のキーワード「おは・し・も」は「おは(おはし)・し(しゃべらない)・も(もどらない)」の行動基準を守って速やかに移動し、高校生(三号校舎を除く)は旧武道館跡地



速やかに避難場所へ集合

駐車場、中学生と高校生の一部(三号校舎)は精華寮前駐車場に集合し、点呼を行った。避難訓練後、上村桂一校長による講評では、片田俊孝氏(群馬大学名誉教授)が提唱する「避難三原則」(①想定を信じるな、②その状況においてベストを尽くせ、③率先避難者になれ)に基づく緊急時における防災意識の喚起が図られた。

皇中NEWS

「団結」を実感できた体育大会

秋晴れとなった九月二十六日、第三十八回体育大会が実施された。三年生にとっては最後の大会となるため、感慨深いものがあつたようだ。以下に生徒の感想を掲載する。

みんなで乗り越えたことが良き思い出

三年A組 築山大智

僕たちにとって今回は最後の体育大会でした。結果はクラスで優勝できて嬉しかったです。何より皆で楽しく団結して乗り越えたことが良い思い出になりました。僕はクラス対抗リレーでバトンを落とす下位になってしまいました。でも、その後、皆のおかげで三位にまで追いつきました。レース後、みんなが声をかけてくれて、少し元気を取り戻すことができました。皇中祭も団結して頑張りたいと思います。

みんなの力で優勝できた

三年A組 城山久瑠実

精いっぱい楽しもうと、中学校最後の体育大会に臨みました。朝のクラスでやった陣に始まり、一日中笑顔でみんな盛り上がるのができてとても楽しかったです。楽しめただけでなく、三Aと黄赤チームのみんなの力で優勝もできて、嬉しかったです。三Aのみんなの団結が実感できてよかったし、最高の思い出ができました。



総合優勝は三年A組

台風一過、「皇學館DAY」を開催

三連休最終日の九月十八日、三重県総合文化センターにおいて「皇學館DAY」が開催され、大学・高等学校・中学校合同の学校説明・相談会及び皇學館高等学校吹奏楽部第十回定期演奏会(津会場)が行われた。

将来を見据え進路相談

日本列島を縦断した台風一八号の影響が心配されたが、この日は台風一過の晴天。午後二時開設予定の学校説明・相談会ブースには午後一時過ぎに早くも最初の相談者が訪れ、熱心に話を聞く姿が見られた。

小学六年のご子息と来場した女性は「これから

の時代は語学力が必須。子どもには設備やカリキュラムが整った環境で学んでほしい」と語り、今日は語学研修やスカイプを使った国際交流など、私学ならではの充実した教育体制について詳しく知ることができた」と満足した様子で話した。母親と訪れた中学三年の女

迫力の演奏で千六百名を魅了

皇學館高等学校吹奏楽部第十回定期演奏会は前日の伊勢公演が台風の影響で延期されたため、津公演が初日となった。

二部構成で行われ、I部は「ラッキードラゴン」第五福竜丸の記憶、「プラハのための音楽」968」などメッセージ色の強い難曲を重厚かつ気迫あふれる音色で聴かせた。II部では「ゲゲゲの鬼太郎」や「ウルトラセ

生徒は現在吹奏楽部に所属していると言いつつ、皇學館高校なら音楽と勉強を両立できそう」と語ってくれた。津市内からやっ

ブン」など有名なオープニング曲をはじめ、「TOKIO」「ペッパー警部」といった昭和のヒット曲を楽しいパフォーマンスとともに披露。三時間半の公演が短く感じるほど密度の濃い内容で、千六百名の聴衆を魅了した。

鈴鹿市在住の親子は「小学三年の息子が金管バンドクラブに入ったばかり。勉強になると思っ

連れて来たが、迫力ある演奏に驚いた」と話し、子どもの興味が続けば皇學館高校を進路の一つに考えたいと語った。松阪の殿町中学校吹奏楽部に所属する女生徒は「音の響きが全然違う。間近でレベルの高い演奏を聴くことができて良かった」と興奮気味に話した。来年はどのような趣向を凝らしたステージとなるのか、楽しみだ。



入試やカリキュラムの質問が相次いだ



多彩なパフォーマンスが繰り広げられた

140名が一堂に会す

神社関係者懇談会・協議員会を開催



佐古理事長

九月十七日、神社関係者懇談会及び学校法人皇學館協議員会が鳥羽国際ホテルを会場に合同開催され、台風の最中にもかかわらず一四〇名にお集まりいただいた。

挨拶に立った佐古一洸理事長は、その中で神社関係者の方々には平素より格別のご支援を賜っていること、また、教学振興会への多大なご理解・ご協力に対し感謝の言葉を述べられ、併せて平成二十八年度の事業報告を行った。

清水潔学長は学園の現況のほか、地元の拠点整備事業をはじめ、

め研究・教育に関する様々な取り組みが着実に成果を上げていくこと、駅伝競走部の全日本大学駅伝初出場の報告、神社への奉職・就職支援等について説明した。次に、北白川道久神社本庁統理



ご来賓を代表してご挨拶。続いて小松揮世久神宮大司の乾杯のご発声により歓談・会食に移った。



体験授業の様子(皇中オープンスクール)

中高オープンスクールが盛況

本年度の第一回オープンスクールは、九月二日の土曜日に高校単独開催、翌三日の日曜日は「皇學館中学校・高等学校オープンスクール」として中高合同で開催した。今回も皇學館大学記念講堂をメイン会場とし、また高

校の一教室を大学説明会場として開設すること、中高だけでなく大学とのつながりも体感できるように企画したところ、中高合わせて一三五〇名(うち高校参加者は一一八〇名)が来場。天候が心配された日程であったが、両日ともに盛会の中に幕を閉じた。

九月二日の高校単独開催では司会の鈴木優花さん(高校三年)の進行でスタート。まず上村桂一校長の挨拶に始まり、生徒代表の黒田結規さ

校の紹介、皇學館大学の説明、入試担当者から学校の取組みやコース、入試の概要について説明があり、続いて志村日向君(高校三年)から学校生活の紹介がなされた。その後、現在「三重県吹奏楽コンクール」において五連覇中の吹奏楽部による歓迎コンサートを楽しみ、学食体験、高

校施設見学、クラブ見学へと進んだ。

九月三日は中高合同開催。校長挨拶、高校の説明のあと白村小奈津さん、池田伊織さん(ともに中学校三年)による学校紹介、そして中学校入試

担当者による入試説明がなされた。休憩をはさみ、参加した中学生は前日と同様の企画へ進み、小学生は学食体験、体験授業、部活体験などを楽しんだ。算数体験授業「マスマス好きになる数算」では、おなじみの「百マス計算」をいつもとは異なる観点で取り組んでみた。すると、そこには驚くべき規則性が……。同じ事象でも観点や視点を変えると新たな発見がで

きたという授業に、参加した児童の多くが充実した表情であった。

なお、中学校は十一月十二日、高校は同月十九日にもオープンスクールを実施する予定。さらに多くの参加を期待したい。

教員によるミニ講義も 専の会地区別教育懇談会開催

本年も、大学の教職員が各地に伺い、教育方針や大学の現況を説明する「専の会地区別教育懇談会」が八月二十六日から九月三



会場に降りて演奏(上)全体会(福岡会場での西井会長の挨拶) (下)個別懇談会(津会場)

三八八名の保護者にご参加いただいた。

同会では、どの会場でも「全体会」「個別懇談会」「懇談会」が行われた。「全体会」は、三十分という限られた時間ではあるが、

本学の教育の全体像を掴んでいただくため、大学の現況や就職状況などの説明がなされた。「個別懇談会」は、各学科の教員が保護者にマンツーマンで履修状況や成績を説明するもので、将来の進路に対する希望やその実現の可能性が具体的に話し合われた。また、それと並行して就職担当者による相談ブースや卒業生との懇談ブース(浜松・四日市のみ)も設けられ、より現実的な進路相談をすることもできた。伊勢・名古屋会場では教員によるミニ講義(四十分)が行われ、普

段大学で行われている講義を体験していただいた。立食パーティー形式で行われる「懇談会」は教員と保護者、また保護者同士の距離が近くなるため、様々な情報を得られることが最大の利点である。「専の会」は本学の保護者会の名称で、学生を「花」に、保護者を「花」を支える「専」に例えたことに由来する。学生の開花・結実を保護者・教職員双方で支えるため、今後専の会の行事にぜひご参加

平成29年度 皇學館大学・近鉄文化サロン共催講座のご案内(10月~3月)

開催場所 ● 近鉄文化サロン阿倍野 聴講料有料

『古事記』を読む—成務天皇～応神天皇の段—	
文学部神道学科 教授 白山 芳太郎	
10月14日(土)	成務天皇～仲哀天皇(上)
11月18日(土)	仲哀天皇(下)
12月9日(土)	応神天皇(一)
1月13日(土)	応神天皇(二)
2月10日(土)	応神天皇(三)
3月10日(土)	応神天皇(四)

神道と仏教—神社・仏閣における神仏習合と神仏分離—	
文学部神道学科 教授・副学長 河野 訓	
11月25日(土)	生田神社における神仏習合と神仏分離
12月23日(土)	施福寺における神仏習合と神仏分離
1月27日(土)	善峰寺における神仏習合と神仏分離
3月24日(土)	英彦山における神仏習合と神仏分離

お申込み・お問合せは
近鉄文化サロン阿倍野まで TEL06-6625-1771
〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-1-40 and 4階
【受付時間】10:00~20:00(日曜・休講日は10:00~17:30)

ご入会金	
●定期講座を初めてお申込みの方は、受講料のほかに、入会金5,400円を申し受けます。入会金は3年間有効、全講座共通です。	
受講お申込み	
●定期講座は開始月の前月28日までに(1日・短期講習会は実施日の5日前までに)、受付手続きをお済ませください。	
●各講座とも満員になり次第締め切らせていただきます。ただし、一定の人数に満たない場合は、講座を中止させていただくこともございます。	
●1日・短期講習会のお支払いには、コンビニ振込みがご利用いただけます(振込手数料別途)。詳しくは、お申込み時にご確認ください。	

1日・短期講習会

『日本書紀』を読む	
文学部国文学科 教授 大島 信生	
1月20日(土)	綏靖天皇～開化天皇
2月17日(土)	崇神天皇(1)
3月17日(土)	崇神天皇(2)

『伊勢参宮名所図会』を読む	
文学部国史学科 教授 岡野 友彦	
10月28日(土)	京三条橋～栗田口
2月3日(土)	日岡嶺～大津・走井

10月7日(土)	海外から見た4-5世紀の倭国
文学部国史学科 准教授 堀内 淳一	

10月21日(土)	「物の哀れ」と神—本居宣長の思考—
文学部神道科 准教授 板東 洋介	

12月16日(土)	風土記からみた古代地方の神話と伝説
現代日本社会学部 教授 橋本 雅之	

3月3日(土)	古事記と日本書紀における相違点について
文学研究科国文学専攻 教授 毛利 正守	

3月31日(土)	『続日本紀』と『萬葉集』
文学部国史学科 准教授 遠藤 慶太	

イベント情報 (10~12月)

10月

21日 佐川記念神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室
学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ
「伊勢地方と曾我蕭白」
道田美貴(三重県立美術館 学芸普及課長代理)

21日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会「物の哀れ」と神
一本居宣長の思考— 板東洋介(文学部准教授)

22日 431教室
第18回高校生英語スピーチコンテスト

28日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会『伊勢参宮名所図会』を読む
「京三条橋～粟田口」 岡野友彦(文学部教授)

11月

11日 月例文化講座 431教室
転換期としての大正時代 谷口裕信(文学部准教授)

18日 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館講義室
第2回「近世文書を読む」
谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)

18日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
「古事記」を読む—成務天皇～応神天皇の段
「仲哀天皇(下)」 白山芳太郎(文学部教授)

25日 佐川記念神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室
学芸員が語る三重の文化と魅力Ⅳ
「伊勢神宮と日本文化」
河合真如(前 神宮徴古館農業館長)

25日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神仏習合と明治維新の神仏分離—
「生田神社における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)

12月

2日 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館講義室
第3回「近世文書を読む」
谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)

9日 月例文化講座 431教室
第二次世界大戦への岐路
—三国同盟と松岡洋右— 田浦雅徳(文学部教授)

9日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
「古事記」を読む—成務天皇～応神天皇の段
「応神天皇(一)」 白山芳太郎(文学部教授)

16日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 風土記からみた古代地方の神話
と伝説 橋本雅之(現代日本社会学部教授)

23日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神仏習合と明治維新の神仏分離—
「施福寺における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野 ☎06-6625-1771へお願い致します。
●神道博物館教養講座は、事前の申込みになります【先着順】。お問い合わせは ☎0596-22-6471へお願い致します。
●史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは ☎0596-22-6462へお願い致します。
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室 ☎0596-22-8635へお願い致します。

編集後記

「うちのメンバーは全員、大学に入ってから自己ベストを更新しています」とは、駅伝競走部・日比勝俊監督の談。裏を返せば、これまでは思うような成果に結び付いてこなかったといえます。イチローは「結果が出ないときどう自分でもいられないか。決して自分でもいられない姿勢が何かを生み出す」と語っていますが、選手たちも監督を信じ、自分のめざす道を突き進んだ結果、全日本大学駅伝という夢舞台への切符を手に入れました。彼らのあきらめない走りを見届けたいものです。【企画部】

開催のお知らせ

第49回全日本大学駅伝対校選手権大会 壮行会

日時●平成29年10月25日(水) 17:00～
場所●創立百周年記念講堂 2F
主催●皇學館大学 共催●朝日新聞津総局・JAバンク三重

皇學館大学が 秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝 対校選手権大会 応援ガイド

11/5日 午前8時5分～ コース 熱田神宮西門前→伊勢神宮内宮宇治橋前 8区間 106.8km

皇學館大学駅伝競走部が東海地区選考会で2位となり、全日本大学駅伝本選に初出場という快挙を成し遂げました。熱田神宮から伊勢神宮までの8区間106.8キロを走りますので、沿道でのご声援をよろしくお願ひします。

誇りを胸に、大舞台を駆け抜けて

駅伝競走部長 橋本雅之



「駅伝」は神宮皇學館の武田千代三郎第六代館長が命名者という本学の歴史に深く関係する競技でもあり、この度の出場を非常に喜んでおります。卒業生はもとより三重県知事や伊勢市長からも「念願を果たしてくれたことはとても嬉しく、期待している」とのお言葉を掛けていただきました。選手たちにはプレッシャーの中でも臆することなく、全国のアスリートと競える大舞台の緊張感、臨場感を味わってほしいと思います。

【5区・11.6km】5.4km地点 10:52
イオンタウン津河芸店前付近
近鉄・豊津上野駅より徒歩約5分

【6区・12.3km】8.4km地点 11:40
津市「雲出本郷町」交差点付近
JR・高茶屋駅より徒歩約10分

【7区・11.9km】6.6km地点 12:07
松阪フレックスホテル前付近
松阪駅(近鉄側)より徒歩約5分

【8区・19.7km】10.6km地点 12:55
伊勢市小俣町「宮前」交差点(百五銀行前)付近
JR・宮川駅より徒歩約15分

【8区・19.7km】14.0km地点 13:05
伊勢市駅前(三交イン伊勢市駅前)向かい側)付近
伊勢市駅(JR側)下車すぐ

【8区・19.7km】16.5km地点 13:12
皇學館大学前
近鉄・宇治山田駅より徒歩約20分

【ゴール】 13:22
神宮会館前



足跡を残す力があるチーム

駅伝競走部監督 日比勝俊

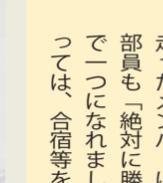
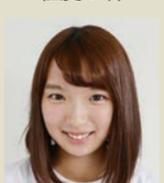
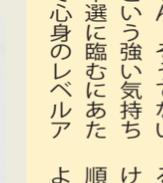


メンバーは全員、大学に入ってから自己ベストを更新しています。それがモチベーションの維持につながり、また最後まであきらめない走りをしたことが、結果に結び付いたのでしよう。選手たちにはこの快挙を光栄に思い、それぞれが自分の今ある力を最大限に発揮して悔いのない走りを見せてほしいですね。さらに言えば、初出場に甘んじることなく、何か足跡を残してほしい。いや、残せると信じています。

応援に際してのお願い

- 鳴り物での応援は禁止されています。
- 応援は必ず歩道上で行ってください。歩道から手や体の一部を乗り出して応援することは禁止されています。
- のぼりをガードレールなどの沿道公共物にくくりつけることは道路交通法違反となります。のぼりは手で持って応援してください。
- 応援ポイントはあらかじめ許可をいただいている場所ではありませんので、まわりの皆様のご迷惑にならないようご配慮をお願いします。また、周辺に無断駐車、違法駐車をされませんよう、よろしくお願いします。

駅伝競走部メンバー

 鈴木佳奈 (国史4年)	 金森 拳之介 (現日1年)	 上村直也 (教育1年)	 平野 恵大 (現日2年)	 新美 健 (教育2年)	 山下 慧士 (国史2年)	 上村 一真 (教育3年)
 梶野 恵加 (教育1年)	 川瀬 翔矢 (現日1年)	 平山 寛人 (教育1年)	 田邊 隼都 (国史1年)	 大河内 雄登 (現日2年)	 金谷 智頭 (教育2年)	 山下 大地 (教育3年)
 松下 日花里 (教育1年)	 桑山 楓矢 (現日1年)	 宮城 響 (教育1年)	 安岡 里哉 (コミュ1年)	 奥野 夏希 (現日2年)		

マネージャー

一年生の元気の良さや勢い、かつ、メンバーの息の合った連携が功を奏し初出場という栄誉を手に入れたことが、チームの一人として走った際、大会の雰囲気や経験者たちから受ける具体的なアドバイスやアドバイスを伝えたいと思います。目標は、来年の出場枠二枠の条件となる十七位以内に入ること。出場できただけで満足するのではなく、少しでも上の順位を狙っていきますので、ぜひ応援をよろしくお願ひいたします。

十七位以内に入り、来年につながる走りを

駅伝競走部部長 田中雄也 (教育4年)